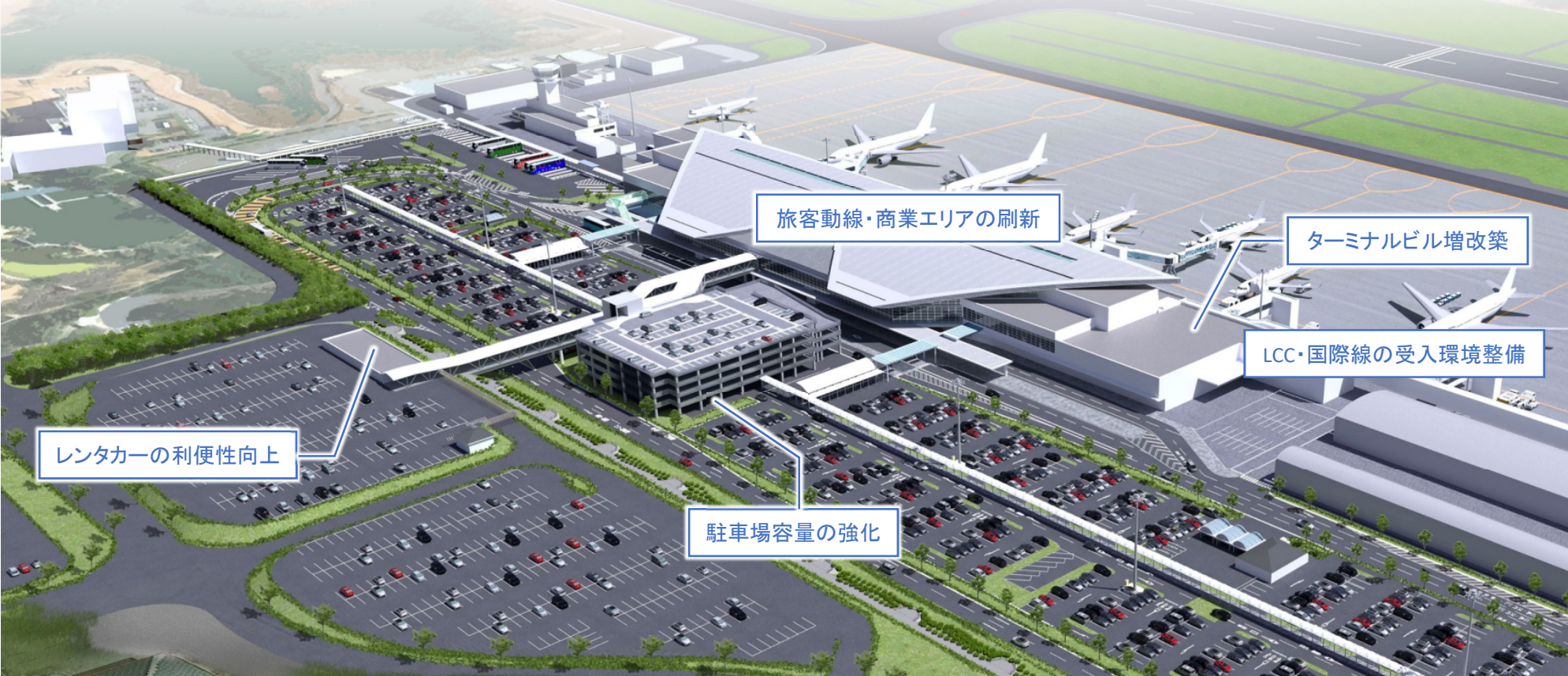


中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ

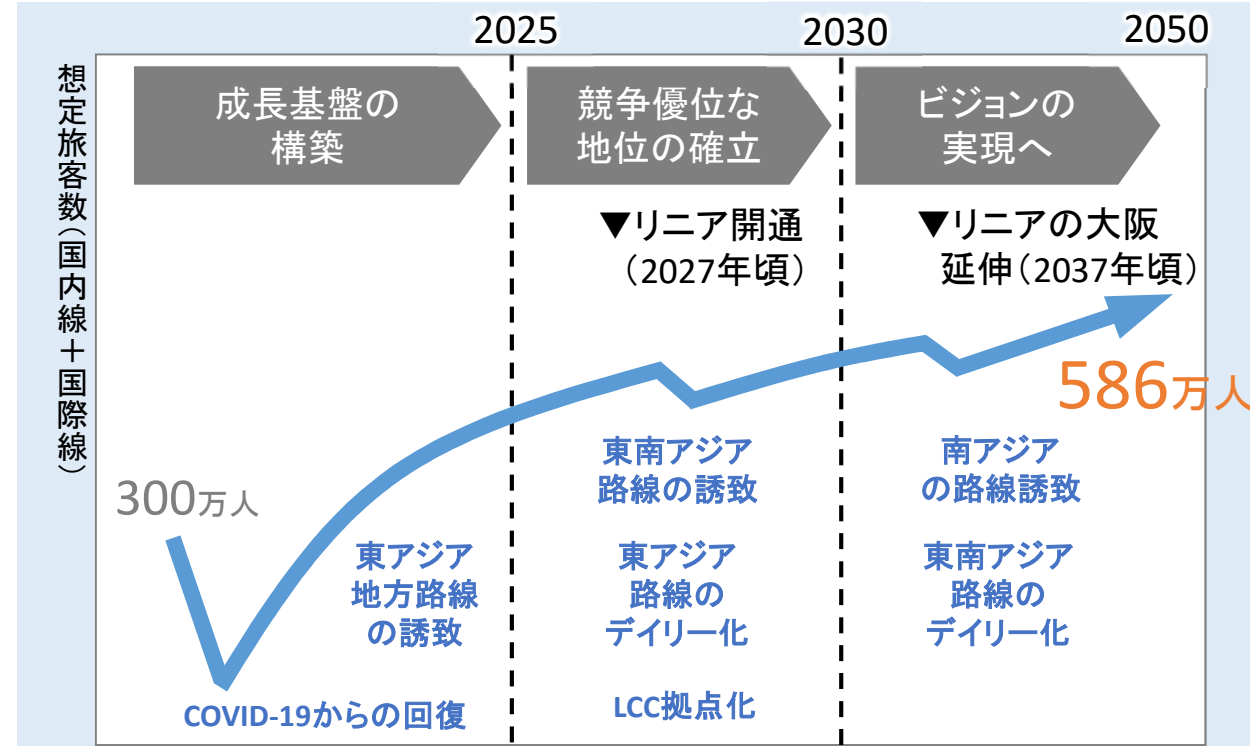


路線数	
現状 〔2018年度〕	12路線 (国内5路線、国際7路線)
30年後	30路線 (国内8路線、国際22路線)
年間旅客数	
現状 〔2018年度〕	300万人 (国内265万人、国際35万人)
30年後	586万人 (国内350万人、国際236万人)

戦略的事業方針

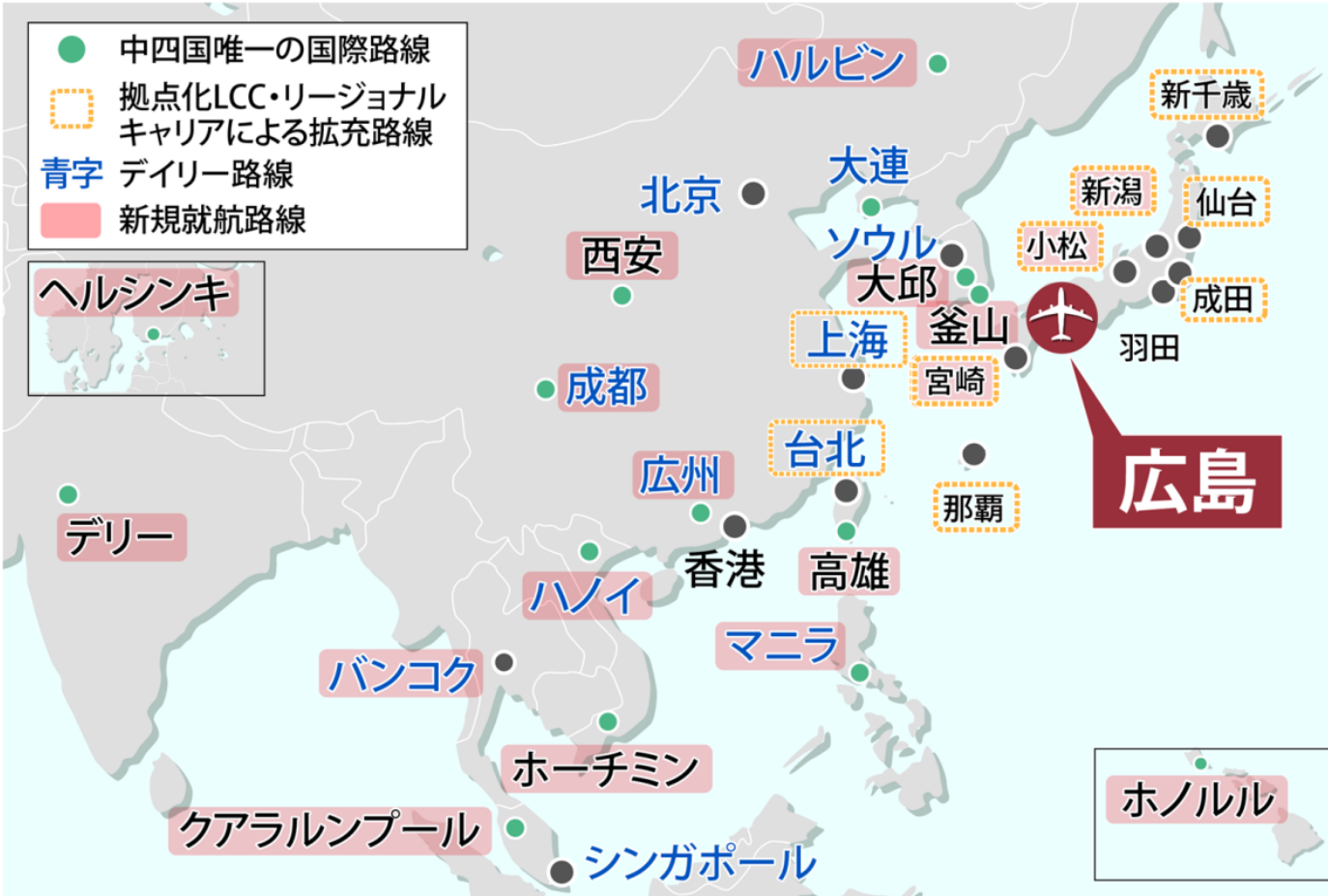
- 1. 中四国で唯一無二の航空ネットワークの構築**
 - 中四国で唯一の国際路線
 - 本邦LCC・リージョナルキャリアの拠点化
 - アジア主要路線のデイリー化
- 2. 全旅程において旅客の期待を上回る感動体験の提供**
 - 中四国全域の航空需要を取り込む交通拠点化
 - 旅を彩る新たな商業体験の提供
 - 臨空エリアと一体で中四国の魅力を発信する観光拠点化
- 3. 観光・ビジネス双方によるインバウンド・アウトバウンド需要の創造と獲得**
 - 中四国観光の課題解決により、世界に選ばれる目的地へ
 - 構成員自らによる需要創造と空港の利用促進

成長ステップ



航空ネットワーク

将来の航空ネットワーク(イメージ)



目指す航空ネットワーク像

国内線

- LCCの拠点化による低廉な路線の拡充
- 地方路線の拡充

国際線

- アジア主要路線のデイリー化
- 東アジアの地方都市や、東南・南アジア路線の誘致

エアラインマーケティング

就航・増便促進

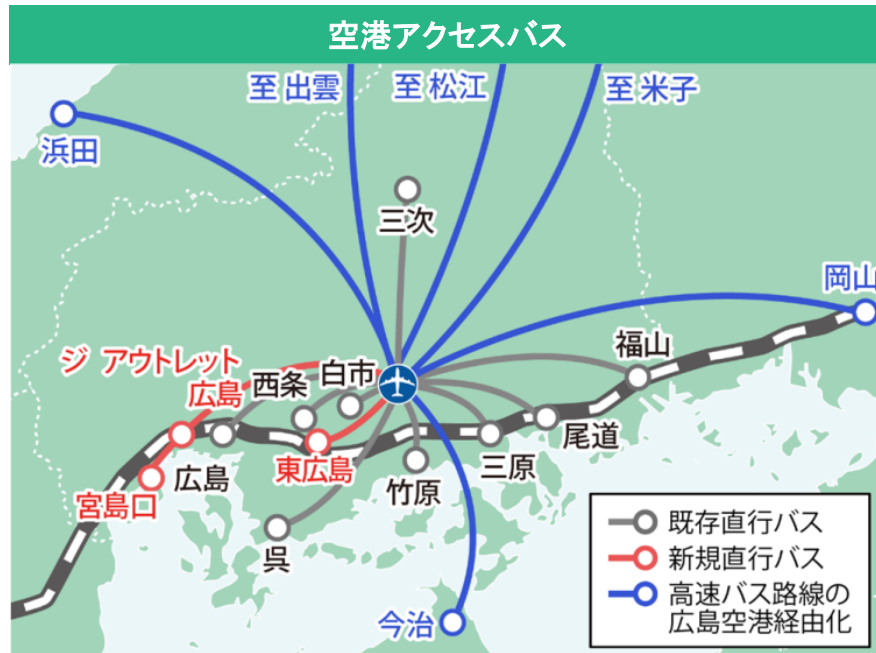
- 専門性と地域との強固なネットワークを有する誘致体制
- 地域の「草の根」レベルの航空需要の集約
- 内際共用を含むスポットの増設による受入体制整備
- グランドハンドリングの体制・容量強化

料金施策

- 就航コストや固定費の低減
- 復便や新規就航を促す割引・インセンティブ
- 就航後も路線採算性向上を支援する料金施策

交通アクセス

将来の交通ネットワーク(イメージ)



新たに加わる交通モード

- 🚲 レンタサイクル
- 🚗 AIオンデマンド交通
- 🚗 乗合タクシー
- 🚗 相乗りタクシー
- 🚗 定額タクシー
- 🚗 ハイヤー
- 🚁 ヘリ

空港アクセス

バス

- 広島市内方面バスの大幅増便
- 東広島駅へのバス路線新設による新幹線への接続強化
- 直行バス路線の拡充 (9路線⇒17路線)

その他

- 交通モードの多様化 (7モード新規追加)

中四国全域の交通ネットワーク

連携強化

- 中四国の広範な交通事業者 (鉄道・バス・船舶等) との連携強化によるシームレスな移動の実現

空港施設等の運用

2階 制限エリア



国際線のイメージパース

内際旅客動線と商業エリアの刷新

- 需要拡大に合わせ、段階的に増築
- 搭乗直前まで快適な時間を過ごせるよう、制限エリアの店舗を拡充
- “地域”を訴求するショーケース化
- 免税店の充実・ウォークスルー化

2階 保安検査場



所要時間:10分以内
国内線のイメージパース

内際ファストトラベルの推進

- 内際の保安検査場の拡張
- スマートセキュリティの導入による搭乗手続き時間の改善
- デジタル技術やWebを活用した利便性・満足度向上

1階 バス待合スペース

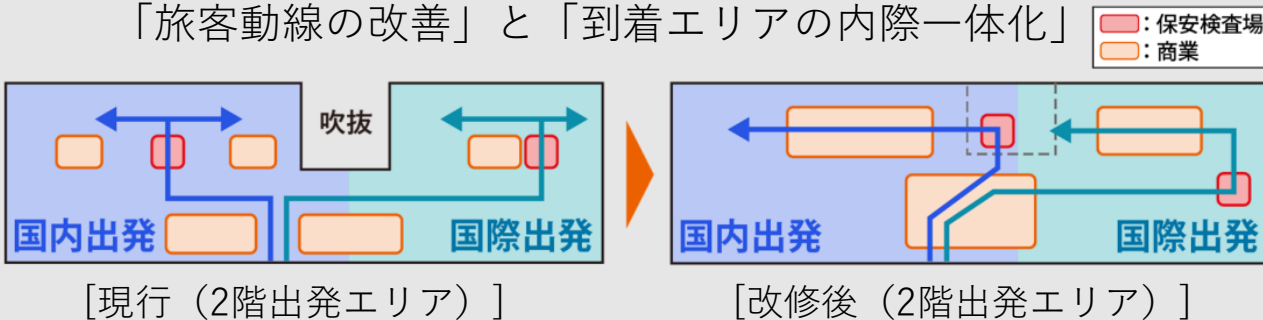


交通機能の強化

- 駐車場容量の増強と多様な利用者のニーズに応える駐車場料金体系
- 国内線・国際線到着エリアの一体化、バス待合スペースの屋内化
- レンタカーステーションの新設

ターミナルビルの改修方針（案）

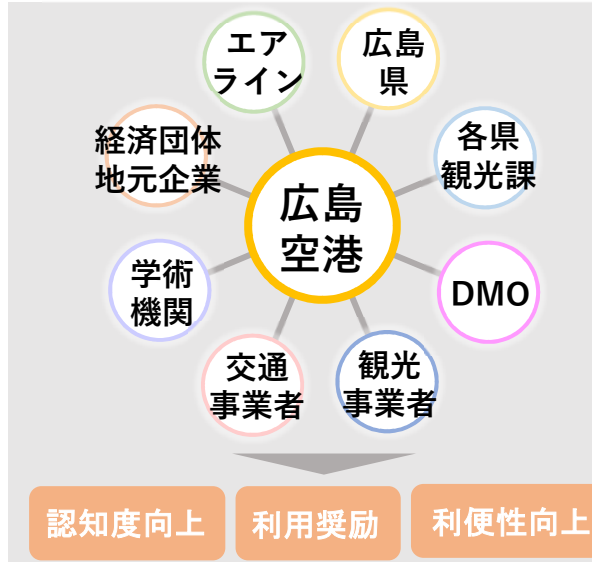
国内線と国際線を分断する吹抜部の屋内化による「旅客動線の改善」と「到着エリアの内際一体化」



地域連携・地域共生

空港の利用促進・需要創造

利用促進のための連携イメージ



- 発地側におけるデスティネーションマーケティングによる中四国の観光目的地としての認知度向上
- 地域の観光事業者等との連携による中四国周遊需要の創造
- 中四国の法人利用の促進やビジネス需要創造のための「サポーターズ倶楽部」の組成
- 強固な官民連携による地域一丸となったエリアプロモーション・エアラインセールス

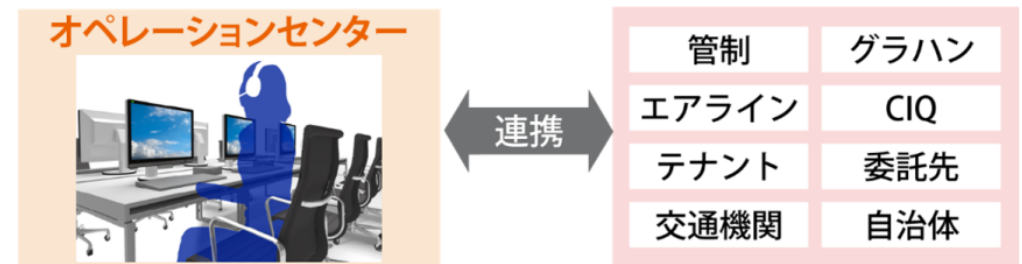
地域共生

- 地域共生の専門部署の設置や、周辺地域との従前以上の対話機会
- 地域共生事業の確実な実施と、地域活性化への貢献
- 空港内事業者（グラハン事業者、テナント等）の採用支援・人材定着支援

安全・安心

事業実施体制

- 社長トップを中心に空港関係者が一丸となって安全・保安を確保する体制構築・風土醸成
- 運用関係者を集約した「オペレーションセンター」の設置による情報の一元化と運用の高度化



モニタリング

- 「業務執行部門」「社内の独立部門」「社外の専門家等」の3段階のモニタリング体制